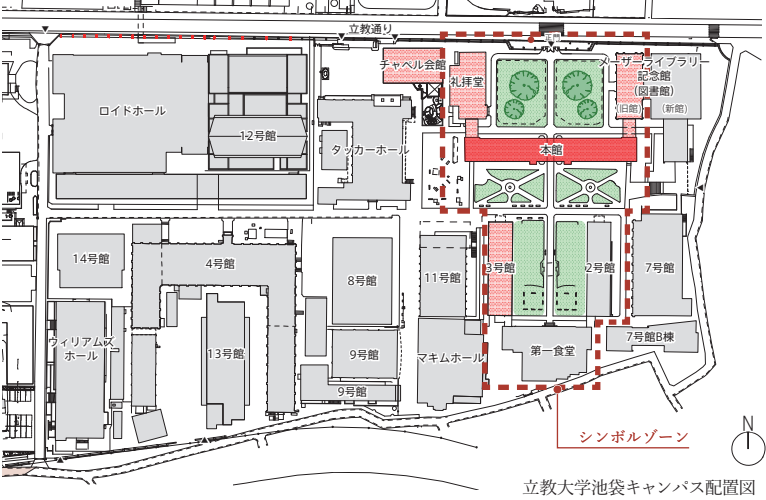




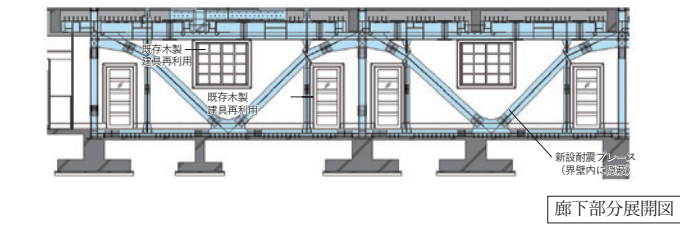
南側俯瞰



左：1923年の関東大震災により大きく被災した外観
「BRICK AND IVY 立教大学百二十五年史 図録」より
右：竣工当時の大学建築群（1918年 中央が本館、右が礼拝堂、左が旧図書館。）



梁型を活かした折上天井とキャンパス内モチーフを参照して特注製作したペンダント照明を設置した廊下。耐震補強が施されたことを感じさせない空間デザインとした。



鉄骨による補強とすることで、鉄筋コンクリートによる補強では実現できない、教室と廊下の間に設けられていた既存の開口部を活かすことが可能となった。

シンボルゾーン内 その他・改修建物



諸聖徒礼拝堂
防音改修・照明改修
礼拝堂
2013年7月



チャペル会館
新築
事務室・音楽ホール他
2013年7月



3号館
内装改修
研究室 → 入学センター他
2013年9月



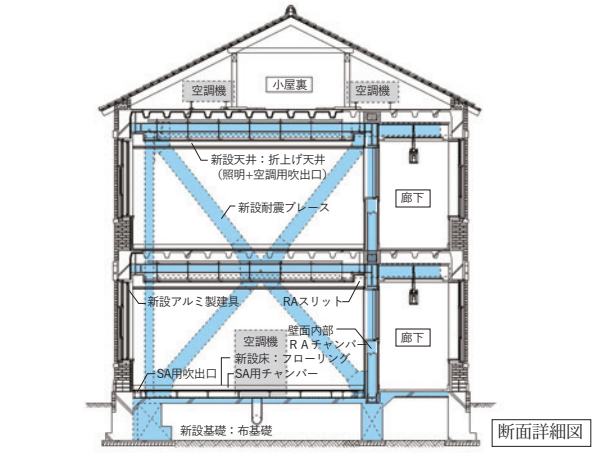
図書館旧館
内装改修
図書館旧館 → 学院史展示館
2014年5月



教室間仕切壁、廊下境壁、スラブ下には、鉄骨柱、梁・ブレースを立体的に配置



鉄骨による補強を選択することでオリジナルの空間イメージを残しながら、構造・空間・照明・情報設備などを最適化した。



本建築のシンプルな断面構成を活かし、1階は床下を、2階は小屋裏を空調のためのスペースとした。最新の設備を整えながら天井高さを充分に確保することに成功した。

建築作品部門

建築物の保存問題全般

東京都豊島区

立教大学 本館（1号館 / モリス館）

次の100年を迎えてもらうこと

立教大学では池袋キャンパスの煉瓦建造物全6棟（1918年竣工）は大学のシンボルとして建物を維持することをキャンパス計画で定め、各建物の用途に応じた耐震対策・内装改修・設備更新を行ってきた。単に保存するだけでなく、教育・研究を実践できる機能的で利用しやすい施設整備を実践することで歴史的建造物がキャンパスの中心として存在し続けることが出来ている。シンボルゾーンにおける学生の活気溢れる姿もまた景観の一部となり引き継がれているのである。

煉瓦建造物全6棟の中心に建つ本館（1号館 / モリス館）は、竣工5年後の関東大震災で中央の塔が崩落し、その部分の階数を減らすなどして復興することになった。オリジナルデザインは5年足らずで失われ、復興した姿が、今日まで90年に渡り多くの人々にとって本館のイメージとなっている。

本建物は竣工当時から教室として利用されている、まさに学び舎である。今後も日常的な教育の場としてあり続けてもらうことが、本計画の最大の使命と言ってよい。私たちは「次の100年を迎えてもらうこと」を合言葉に、設計者の手のあとを残さぬように再空間化することに挑むことにした。そのために、この歴史的建造物に対して分析や工夫を重ねることで、多くの発見をすることができ、最良の回答に導かれて来たように思う。

現代の修復理念では、新しいものは新しいものとして、歴史的意味のあるものと見間違えないようなデザインとすることが基本的ルールである。しかし、本計画においては新旧の要素を明確に区分するのではなく、もともとあったかのように建物の歴史に寄り添う繊細な配慮に基づいたデザインをちりばめて空間をつくり上げている。

文化財としての「オーセンティシティ」を保ちながら、活用し続けてもらうために空間づくりを行うこと、このバランスにこそデザインのポイントがある。今、次の100年に向けて竣工した建物を前にして、私たちの姿勢に間違いがなかったことを改めて感じている。

	古賀大（こが・だい） 1963年東京都生まれ / 1987年東京藝術大学美術学部建築科卒業 / 1989年東京藝術大学大学院修了 / 1989年日本設計 / 1999～2000年文化庁派遣芸術家在外研修員（美術） / 現在、日本設計執行役員第2建築設計群長 / 2006年日本建築家協会賞 / 2010年JIA環境建築賞優秀賞
	内山保晴（うちやま・やすはる） 1967年新潟県生まれ / 1989年新潟大学工学部建築学科卒業 / 1992年東京藝術大学大学院美術研究科修了 / 1992年日本設計入社 / 現在、同社国際プロジェクト群所属
	畑江未央（はたえ・みお） 1985年東京都生まれ / 2008年東京都立大学工学部建築学科卒業 / 2010年首都大学東京大学院修士課程修了 / 2010年日本設計入社 / 現在、同社建築設計群所属
	片迫幹男 （かたさこ・みきお） 1958年広島県生まれ / 1980年広島大学卒業 / 2006年日本設計入社 / 現在、同社構造設計群所属
	小笠原昌宏 （おがさわら・まさひろ） 1960年広島県生まれ / 1982年早稲田大学卒業 / 1992年日本設計入社 / 現在、同社リノベーション設計部（環境設備）所属